

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

フリガナ	
氏名	

一般選抜の主眼は、高等学校教育課程相当において英語科目の総合的な理解が図られてきたかどうかを吟味することにある。下でA日程を例に、問題別に出題意図並びに留意点などを示す。

問題1は文法・語法に関する設問である。基本的な文法や英語構文における語法が理解できているかどうかが設問設定の根本にある。英語の文法を体系的に理解し、かつ重複した学習がおこなわれてきたかどうかという点が、ここでは問われている。

問題2では対話文が設定されており、その応答を複文で回答することが求められている。そのため一定の作文能力が必要である。具体的な記述をおこなうことにより、自らの考えを表現しつつ、思考力や表現力を発揮することが期待されるが、挨拶だけに留まるような回答は減点の対象となる。基本的なここでは統辞構造や会話調の自然な構文が作文されているかどうかで得点に直結する。

問題3は2者の完答による語句の並べ替えである。ふたつの箇所を適正な順序で並べないと得点が得られない。したがって、正確な英語の語順の理解が求められる。語順を整序する一般的な問題ではあるが、英語の文法上の語順や慣用句をきちんと整理しておくという一定の対策がおこなわれていないと、誤記につながる可能性が高く、注意が必要である。

問題4は長文語彙問題である。長文読解の上で最適な語彙を選択肢から選ぶ。長文全体を理解するとともに、その文脈を読み解き、さらに的確な語句を選択しなければならぬ。A日程では、生物多様性の多種多様な側面に始まり、生態環境や地球環境問題に対する受験者の意識や、文章を正確に読解する能力が問われている。

問題5は長文内容問題である。ここでは長文を読解しつつ、複数のパラグラフや全体を把握することが肝要である。中にはふたつの設問が含まれる。和訳と、内容把握とを求める説明型の設問とのふたつがそれである。

パラグラフ・リーディングができることは長文読解のひとつの条件だが、ここではそれだけが問われているのではない。それは、とくに後者の設問では「50字程度で解答欄に記入」とあるように、説明と和訳の文字数が限定されているからである。長文を読み解き、加えて邦文で記述して回答すると言う日本語への翻訳や論理性に対する能力も求められている。

また本問の場合、国際社会に対する認識や難民・移住者に関する一般常識的な社会的知識を持った上で、その状況や数値などから、長文内容が読み解けるかどうかも鍵になる。解答文字数に上限があるため、文字数が少ないと減点対象となり得るので注意を要する。

なお、長文問題の難易度はほぼ同じで、端的に言えば長文を隅々まで読解する能力の高さが不可欠である。

問題 1	1	3	2	4	3	3	4	3	5	2
	6	2	7	4	8	2	9	4	10	3
問題 2	11									
問題 3	12	a 4 b 1	13	a 4 b 2	14	a 4 b 3	15	a 2 b 4	16	a 3 b 1
	17	a 2 b 1	18	a 1 b 4	19	a 2 b 1	20	a 3 b 1	21	a 2 b 3
問題 4	22	ア	23	イ	24	エ	25	ウ	26	イ
問題 5	27	アフガニスタンは非常に貧しい国であり続けてきた、実際には世界で12番目に貧しい国と言われている。[類似回答を許容する。]								
	28	彼らは難民として自国を逃れ、その多くはパキスタンに160万人が、イランには260万人が居住している。(44字)								